

職員からの事業所評価の集計結果（公表）

公表 2026年 5月 18日

事業所名 神島田こども園

職員数 45 回収数 36 回答率 80%

※A・・・よくできている B・・・ほぼできている C・・・努力が必要

		チェック項目	A	B	C	分析	分析からの対応
保育の理念・目標	1-①	こども園の理念を理解し、説明できる	5	17	14	園の目指す方向性が職員全員に概ね理解されています。「説明できる」という点に自信がもてない結果になっています。理念を大切にしながら日々の保育を、具体的な目標に基づいて明確に説明していく必要があります。	理念や目標を大切に日々の保育を行っていきます。指導案作成時に「この活動は目標のどこに繋がるか」を意識的に紐づけるようにします。
	1-②	教育保育目標を理解している	5	23	8		
保育計画	2-①	全体的な計画を理解し、年間計画・月週案を作成し、見直している	11	14	11	全体的な計画や個別計画の作成とPDCAサイクル(見直しと改善)を循環させるよう意識しています。精度には個人差があると考えられます。	個別計画においては、子どもの発達をより客観的に捉えるための計画方法の共通化や、定期的なケース会議の充実を図っていきます。
	2-②	一人ひとりの発達に応じて、必要に応じ個別の計画を作成、見直している	11	17	8		
人権	3-①	子どもの人権を尊重し、大切にしている	22	13	1	本園の大きな強みと捉え、子ども一人ひとりの意思を尊重する意識が全職員に深く根付いています。	高い意識水準を維持しつつ、さらに「言葉にならない子どものサイン」をどう汲み取るか、専門性を高めていきます。
保育内容	4-①	子どもが意見や意思表示ができるような自主性を尊重する関わりをしている	17	19	0	全体として質の高い保育が実践されていることが伺えます。その一方で、さらなる向上に向けた課題として、「五領域のねらい」を意識した深い環境構成や、「自主性の尊重」に対する職員間での意識のズレがあるようです。	職員間で「子ども自身で遊びを選択できる配置になっているか」「玩具の種類や数は適切か」など、目に見える環境（物的環境）のチェックリストを作成し、客観的な基準で振り返りを行っていきます。また、場面ごとで「自主性の尊重」に対する基準をと唯一していきたいと思えます。
	4-②	生活や遊び・行事を通して、五領域のねらいが達成されるよう、子どもが自発的に関われる環境を用意している	8	25	3		
保育環境	5-①	園内掃除をし、衛生面・安全面に配慮している	11	23	2	清掃や安全管理は配慮されています。一方で、子どもの発達段階に応じた物理的な構成や提示の仕方に工夫の余地を感じている職員がいるようです。	玩具の選定基準や、子どもの興味から遊びを展開させる「環境構成のコツ」を共有するワークショップ等を実施していきます。
	5-②	子どもの遊びが発展・展開するよう、子どもの発達や興味関心にあった玩具を用意している	10	19	7		

子どもへの対応・援助	6-①	子どもに分かりやすい言葉遣い・話し方をするよう心がけている	20	16	0	子ども一人ひとりを大切に する姿勢が職員に浸透して います。園全体での協力体 制も機能しています。	「子どもの権利条約」な ど、再確認し、子どもの尊 厳を守るための事例検討等 を継続し、質の向上を図り ます。
	6-②	一人ひとりの生活リズムに合わせて生活習慣の自立、生理現象に対応をしている	13	23	1		
	6-③	子ども同士の間関係が育つよう年齢に応じた仲立ちをしている	12	24	0		
	6-④	個別に配慮が必要な場合には、園全体で協力体制を組み、対応している	18	16	2		
保健・安全・防犯	7-①	①子どもの健康に配慮し、安全で衛生的な環境を用意し、防犯対策にも配慮している	14	21	1	日々の安全点検や衛生管理は高いレベルで維持されています。子どもを危険から守る意識が共有されています。	安全点検を徹底し、配慮が必要な場所を即座に園全体で視覚共有するようにします。
防災	8-①	災害への備えをし、避難訓練等地域と連携して対策をしている	17	15	4	あらゆる想定（場所・状況・時間）の避難訓練を行っています。また、神島田公民館や神島田小学校への広域避難体験を年1回実施しています。	防災については、地域連携を伴う訓練を継続的に行います。また、園児が園に留まる可能性を踏まえた対策を考えていきます。
給食	9-①	年齢・アレルギー・宗教等個々の子どもの食生活に対応している	27	9	0	離乳食・アレルギー・宗教対応など、できる限りの配慮がなされています。食育活動も活発で、子どもたちが食事を楽しめている実感を職員も持っています。	食の安全を第一に、市献立を基とした給食内容で、栄養・食環境を大切に給食提供を行っています。食育活動では、食への興味が広がる体験を大切に取り組み、その内容がご家庭にも伝わるよう「園だより」や「HP」等で情報発信していきます。
	9-②	食育活動が充実し、楽しい食事を提供している	20	15	1		
保護者との連携	10-①	職員に相談しやすい雰囲気がある	13	22	1	「関係性（雰囲気）は非常に良いが、具体的な要望への対応にはまだ慎重さや課題が残る」という傾向が見て取れます。	相談しやすいからこそ集まる多くの意見を、どう組織として受け止め、保護者にフィードバックするかの仕組み作りを課題としていきます。
	10-②	保護者の意見や要望等の対応ができています	13	22	1		
	10-③	保護者参加の行事を通じ、家庭と園の子ども理解を図っている	11	21	4		
子育て支援	11-①	園庭開放・すまいるサークル等を開催し、地域の子育て家庭の支援を積極的に行っている	22	10	4	地域支援、地域のニーズに応じた対応が浸透してきています。	引き続き地域の子育て支援の拠点として、それぞれの家庭に寄り添いながら地域のニーズに応じた対応を継続していきます。
	11-②	延長保育・一時預かり保育・病児病後児保育等、地域のニーズに応じた事業を実施、いざという時の安心を提供している	24	10	2		

地域との連携	12-①	校区内・市内の施設や団体・個人と交流し、子どもが社会や文化と触れ合う機会を大切にしている	12	20	4	小学校との接続、専門機関との情報共有、職場体験の受け入れなど、外部との連携を行っていますが、限定した職員で対応することが多いため、より良い連携を目指し、情報共有の課題を感じています。	園としての外部ネットワークを組織的に管理し、どのようなことをしているのかを全職員が理解し、把握できるように伝えていきます。
	12-②	小学校との連携を積極的に行い、幼児教育と小学校教育の相互理解をすすめている	14	17	5		
	12-③	医療機関・相談機関・支援機関と連携し、子ども・保護者・家庭にとって必要な連携を提供している	17	18	1		
	12-④	職場体験・実習生の受け入れを積極的に行い、幼児教育の大切さを発信し、人材育成に繋げている	20	13	3		
情報発信	13-①	園だより・掲示板・ホームページ・広報等を通じ、情報に努めている	24	11	1	園だよりやHP、掲示板を活用しています。保護者や地域に対し、開示すべき情報を適切に届けられていると考えています。	HPのリンク先や、閲覧方法を周知し、透明性を高めていきます。
	13-②	制度的に開示を求められている情報について定められた機関に公表している	16	17	3		
職員体制	14-①	職員の組織体制が明確で役割分担の協力ができている	10	21	5	「12時間保育の維持」と「職員の就業状況改善（残業削減等）」の両立、研修機会の確保も課題となっています。	1日12時間の保育維持と職員の負担軽減・研修時間の確保という課題にし、AIの積極的活用や事務作業の効率化をさらに進め、心理的安全性の高い職場環境を構築していくことを目標とします。
	14-②	職員の資質向上に努め、研修・教育が充実している	15	16	5		
	14-③	1日12時間の保育を維持しながら、職員の就業状況の改善が両立するように努めている	7	24	5		
法令遵守	15-①	業務上知り得た情報について守秘義務を守り、個人情報保護がされている	24	12	0	「情報の取り扱いという事務的・法的なルール」に対する認知度は高い、「人間関係や権利に関わる相談」という心理的なルールについては、曖昧さが見受けられます。	「風通しの良い職場づくり」を法令遵守の一環と捉え、職員が一人で悩みを抱え込まないための「セーフティネットの再点検」を目指していきます。
	15-②	子ども・職員・保護者の苦情・虐待・ハラスメント等について、園内及び第三者機関が設け、相談しやすい体制を作っている	23	13	0		

重点改善トピックス

- 1、「理念・目標」の再浸透：職員が自分の保育を「園の目標」の言葉で語れるようにする。
- 2、「環境構成」の専門性向上：子どもが自発的に遊び込める環境(コーナー等)の研究。
- 3、「組織の効率化と教育」：役割の明確化と、研修成果を現場に還元する仕組みづくり。

※今回の評価結果で、職員の理解にバラツキがあることが明らかになりました。園で実施されていることを全職員が共有し、園全体で課題認識が統一されるようにして、より質の高い保育へと繋げていきたいと思っております。